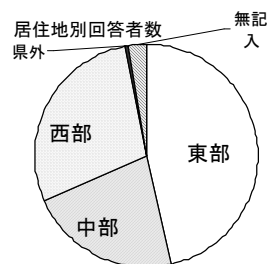


県立高等特別支援学校に関する 電子参画アンケート及びパブリックコメントの結果について

1 回答者

	回答者数	
パブリックコメント	14名	合計 239名
電子参画アンケート	会員214名、一般11名	

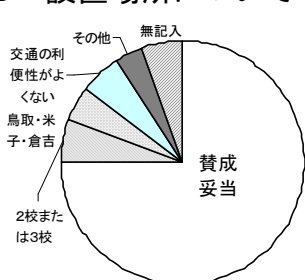
※質問内容はどちらも同じ



2 高等特別支援学校の認識と県の設置準備について

- (1) 他都道府県に、知的障がいの軽い生徒を対象とした就職をめざす高等特別支援学校があることを知っていた回答者は、23.4%であった。
- (2) 鳥取県教育委員会が県立高等特別支援学校設置にむけて準備・調査を行っていることについて知っていたという回答者は、22.6%であった。

3 設置場所について



旧赤碕高校跡地に既存校舎を活用して設置することについて、74.9%の回答者が賛成である、妥当であるという意見であった。

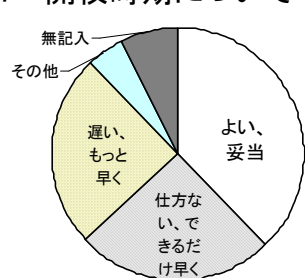
<賛成である主な意見>

- ・ 県中部で駅から近く妥当である。
- ・ 地理、施設等からも最適であると思う。

<その他の意見>

- ・ 東部、西部も含めた3地域に設置すべきだ。(5.9%)
- ・ 未利用施設の活用はよいが、利便性が悪い。(5.4%)
- ・ 鳥取(または米子、倉吉)がよい。(4.6%)

4 開校時期について

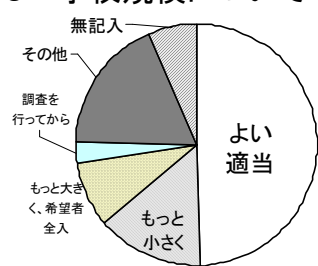


「よい、妥当である」という意見(37.7%)が最も多いが、「仕方ないができるだけ早く」という意見(25.5%)、「遅いのもっと早く」という意見(24.7%)も多く、肯定的な意見と早期設置を求める意見が拮抗している。

<主な意見>

- ・ 準備期間が必要なら仕方ない。
- ・ もっと早くできないのか、開校までも対象となり得る生徒はいる。
- ・ 1年でできる。行政は連携が遅すぎる。

5 学校規模について



「よい、妥当である」という意見(49.4%)が最も多かったが、「わからない」「臨機応変に」等の「その他」の意見(18.4%)が次に続いた。

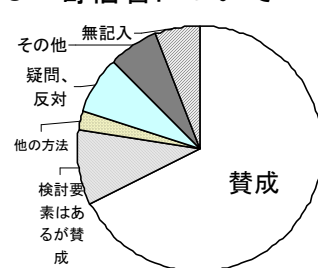
<規模を小さくという意見> 14.6%

- ・ 一人の教師が目届く範囲を考えるともう少し少ない方がよい。
- ・ 生徒一人一人への対応や教師側の負担を考えると、もう少し少ない方がよい。
- ・ 1学年40名は多い。

<規模を大きくという意見> 8.4%

- ・ 希望者全入という考えから定員増が望ましい。
- ・ 対象となる児童生徒は年々増えているように思う。

6 寄宿舎について



「必要」という意見(67.4%)と、「検討要素はあるが賛成」という意見(10.0%)を合わせると、ほぼ8割の人が寄宿舎の設置に賛成している。

<賛成の主な意見>

- ・ 本人の生活面での自立などでも期待できる環境だと思う。
- ・ 東部からでは遠くなるのでぜひ必要だと思う。

<疑問・反対という意見> 7.5%

- ・ 安易に寄宿舎を設置すれば、保護者の負担増や公費の支出増となる。
- ・ 通学利便性で中部に設置することなので寄宿舎は不要。
- ・ 軽度でも障がいのある子どもに寄宿舎での集団生活は不安。

<その他の意見>

- ・ 近くのアパート等を借り上げることはできないか。
- ・ グループホームのような少人数の宿舎が良いと思う。